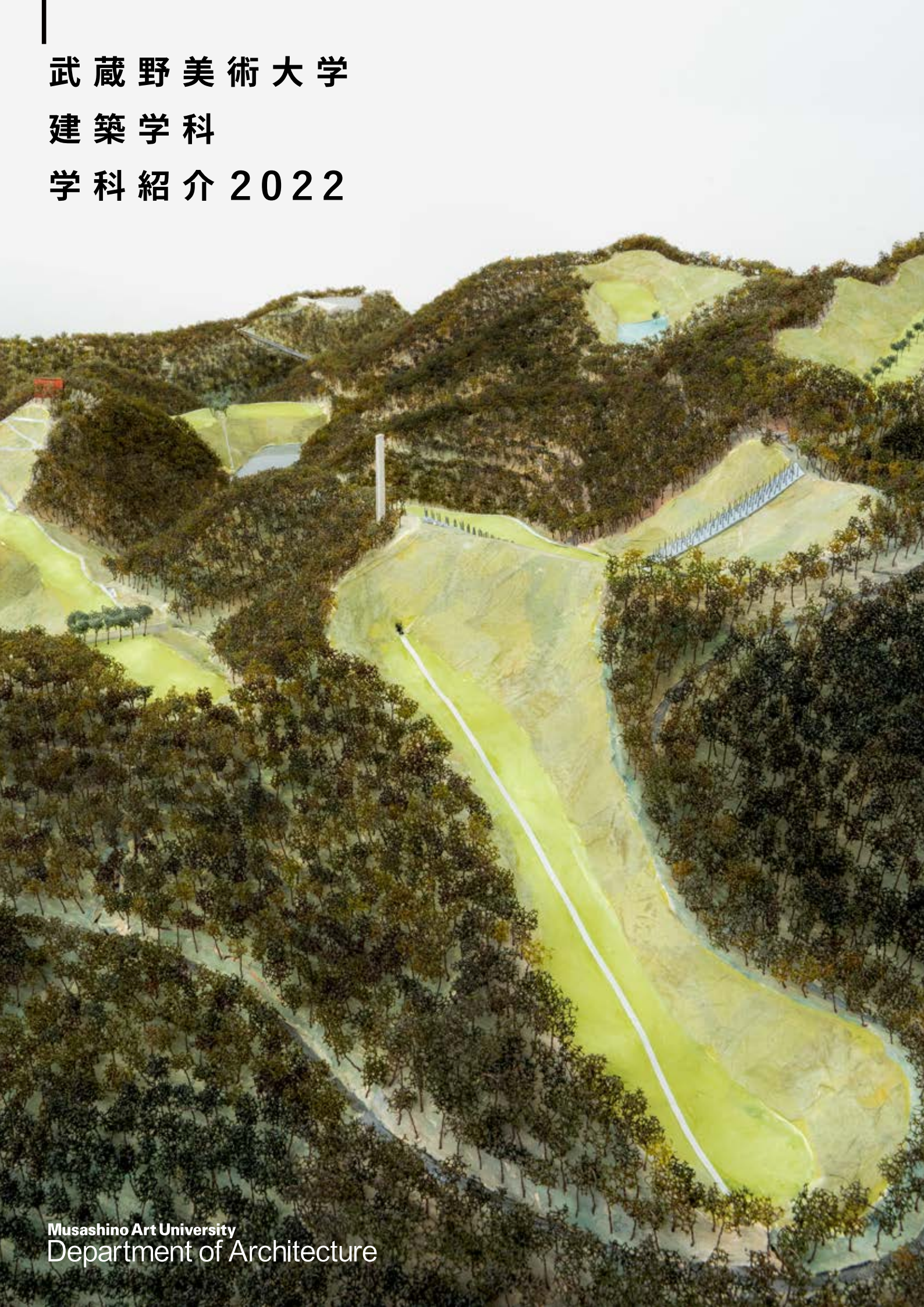
武蔵野美術大学
建築学科
学科紹介2022



Musashino Art University
Department of Architecture

建築ってなんだろう？

居場所と環境をつくり、社会に新たな価値を創造します

建築には良質な環境をつくり、人々の活動を支え、居場所をつくる役割があります。室内、建物、まち、地域、都市 … という特徴をもった環境は互いに関係しあっています。建築はその全体を扱います。身近で永く存在する建築は、人が生きる社会の仕組みや価値観を語る存在といえます。
建築を考え、つくることは、このような社会の仕組みに働きかけ、新たな価値を創造する行為です。

ムサビ建築学科

住宅から都市、アートまで
人の営みを建築の視点から考えます

ムサビ建築学科では、環境や社会への視点と同時に、美術大学ならではの特徴を生かし、美的価値を含めた価値の表象として、建築の探求と創造を目指します。学生は美大という環境から創造の刺激を受け、美術・デザインの基礎を学び、工学技術を含む専門科目で学んだ見方・知識・方法を統合するものとして建築デザインを学びます。多様なスタジオでは建築、インテリア、ランドスケープそしてアートまで、興味を深めることができます。

建築学科で学べる領域

私たちの体験する環境すべてが対象です

建築学科で学ぶことは、単に建物をつくるための技やデザインだけではありません。人がその一生をかけて体験するすべての環境が、学びの対象になります。
■建築デザイン　■都市デザイン　■ランドスケープデザイン
■住宅設計　■空間デザイン　■建築理論　■構造デザイン
■インテリアデザイン　■コミュニティデザイン　■環境計画
■ワークショップ　■環境造形　■インスタレーション

カリキュラムの特徴

「設計計画」を軸に４年間学びます

教育の大きな軸は、４年間必修の「設計計画」。
「設計 = design」と「計画 = planning」を分けることなく、トータルな表現として建築に取り組むための演習課題です。講義で身につけた知識・技術を「設計計画」の課題に集約、統合させるように、豊かな創造性を育むカリキュラムが工夫されています。また、一級建築士、二級建築士、木造建築士の受験に必要な指定科目も開設されています。

スタジオ制

３・４年次の学びは個性を伸ばし
自分の関心と興味を深めます

３年次以降の設計演習 (設計計画 Ⅲ･Ⅳ) とゼミ (卒業論文･卒業制作指導) は、各教員が主宰する特色あるスタジオ単位でおこなわれます。学生は自分自身の関心をもとにスタジオを選択し、自分自身の適性とやりたいことを探っていくことができます。共感できる領域に軸足を置き、友人との違いを確認しながら、社会へと目を向けていく場にもなります。４年次は所属スタジオをホームベースに、卒業制作や進路の決定に臨みます。

1 年次
造形の各分野を広く学ぶ

1

1 年次は絵画・彫刻・デザインなど、造形の基礎を広く学ぶことから始まります。他学科開設の実習科目が選択でき、建築に隣接するデザインに触れる機会も得られます。建築史をはじめ美術・デザインの理論や歴史に関するさまざまな講義科目が体系的に整い、1 年次から自由に選択できます。建築学科が開設する科目では前期には建築設計基礎、図学、建築設計表現により建築デザインの基礎、表現技法を学びます。後期からは､4 年間を通して学科の中心科目となる「設計計画」(建築設計演習) が始まります。同時に、建築士資格に必要な構造力学、構造デザインなど工学的内容の授業も 1 年次から始まります。工学部建築学科のカリキュラムに比べ、造形教育、建築デザイン教育に重点が置かれ、1 年を通して造形力・表現力の基礎を身に付けていきます。
前期・後期の終わりには外部講評者を招き、1 年次から 4 年次までの優秀作品を一堂に会して発表･講評する「パーティカルレビュー」を行います。

[前期]
建築設計基礎
図学
建築設計表現

[後期]
設計計画 I - 1
設計計画 I - 2

演習系科目　造形総合・彫刻
造形総合・絵画
建築設計基礎
図学
建築設計表現
設計計画 I - 1
設計計画 I - 2

講義系科目　[建築の計画・技術を学ぶ]
構造デザイン
構造力学基礎
基礎数学

2 年次
専門に向けて基礎を学ぶ

2

2 年次の建築設計演習「設計計画 II」では、住宅や公共的な機能をもつ建築の設計課題に取り組みます。講義科目で学んだ知識を生かして、自然環境、生活、社会、文化といった側面にも着目し、建築デザインを多面的に深く考えることを目指します。2 年間で建築デザインの基礎、表現技法とともに、計画・設計の方法を身につけます。講義科目では、多様な専門科目が開講されます。建築計画、建築構法、建築材料学･実験、計画原論といった建築学の各分野におけるベーシックな必修科目を通して、ひとつの建築ができあがるまでに必要とされる知識をしっかりと学びます。これらの授業を通して造形としての側面に加え、技術や性能、生活や文化など建築をめぐるさまざまな側面について、理論や実践例に接していきます。また、建築デザインにとって、環境という視点、造形という視点が重要であると考え、2 年次から建築計画や基礎造形など学科独自の講義が始まります。

[前期]
設計計画 II - 1

[後期]
設計計画 II - 2

演習系科目　設計計画 II - 1
設計計画 II - 2

講義系科目　[建築の意匠・理論を学ぶ]
文化総合・日本建築史
文化総合・西洋建築史
文化総合・近代建築論
[建築の計画・技術を学ぶ]
建築計画 / 計画原論 / 建築構法
構造力学 / 建築材料学・実験 / 応用数学
[造形・環境を学ぶ]
基礎造形 / 造形演習 / 写真表現

3 年次
スタジオで深く学ぶ

3

3 年次から「設計計画」はスタジオ選択制となります。独自のテーマをもつ 8 スタジオ (前期 4 スタジオ・後期 4 スタジオ) から各期 1 スタジオずつを選択して学びます。分野としても建築デザイン、環境造形、ランドスケープデザインなど多岐にわたり、テーマの異なる 2 つのスタジオで学ぶことで、自分の関心のあるテーマを模索、発見し、個性を発揮していくきっかけとなります。
講義科目では 2 年次に学んだベーシックな科目内容をより深めた計画・構造などの科目群、実務に必要な施工・法規・設備などの科目群、さらに建築意匠、ランドスケープデザイン、都市デザイン、建築形態論など、領域を広めた科目群が開かれ、スタジオ選択と関連づけて履修することができます。

[前期]
設計計画 III - 1
高橋スタジオ
小西スタジオ
菊地スタジオ
持田スタジオ

[後期]
設計計画 III - 2
鈴木スタジオ
布施スタジオ
長谷川スタジオ
土屋スタジオ

演習系科目　設計計画 III - 1
設計計画 III - 2

講義系科目　[建築の意匠・理論を学ぶ]
建築意匠 / 建築概論 / 建築形態論
[建築の計画・技術を学ぶ]
建築施工 / 建築法規 / 建築設備・実験
[造形・環境を学ぶ]
都市デザイン / 環境計画
ランドスケープデザイン概論

4 年次
スタジオから社会へ

4

4 年次には 1 年間を通して 1 つのスタジオに所属します。スタジオでの時間は、進学・就職・海外留学など各自の進路へと漕ぎ出す、未来への旅立ちの第一歩となります。「設計計画 IV」では空間やものづくりに関わるさまざまな視点から、スタジオの教員と非常勤講師のコラボレーションにより社会における建築や環境のデザインを意識した課題が出題されます。各スタジオのテーマを深化させた課題を通して、各自が将来どのように建築と関わっていくかを考えます。
卒業制作は最も重要な創造・表現の場です。スタジオで指導教員や仲間たちとディスカッションを重ねながら制作を進めます。まず前期には自身の関心を卒業研究にまとめ、後期には研究を足がかりにこれまで蓄積した思考やデザインの力を展開し、4 年間の集大成となる表現として卒業制作に取り組みます。スタジオではこの他にもプロジェクトや見学会などの活動も行なっています。

[前期]
設計計画 IV
鈴木スタジオ
高橋スタジオ
布施スタジオ
小西スタジオ
菊地スタジオ
持田スタジオ
長谷川スタジオ
土屋スタジオ

[後期]
卒業制作
鈴木スタジオ
高橋スタジオ
布施スタジオ
小西スタジオ
菊地スタジオ
持田スタジオ
長谷川スタジオ
土屋スタジオ

演習系科目　設計計画 IV
卒業制作

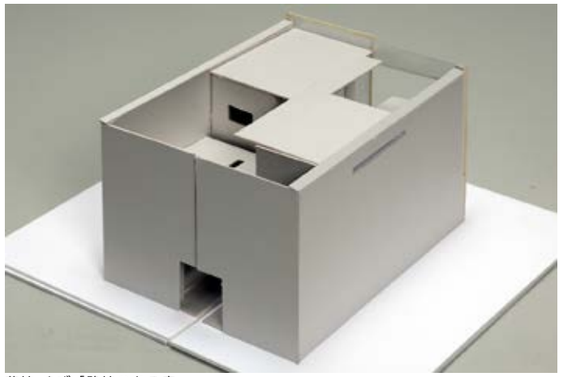
講義系科目　[造形・環境を学ぶ]
ランドスケープデザイン近代史
庭園史

課題紹介　１年次・前期　建築設計基礎・図学・建築設計表現

短期課題
200㎥の家

この課題は、建築設計基礎・図学・建築設計表現で習得した技法を自らのデザインで実践するためのものである。
敷地・条件等:敷地は東京郊外の住宅地。南側に緑豊かな公園が位置する。
住宅の規模は 200m³。平面・断面等の形状は自由に想定。
ただし、階段を設置すること。家族構成は夫婦とする。

提出物
図面:A3 用紙２枚以上に下記の内容をレイアウト。表現方法は各自設定。
・配置図　S=1/100　１階平面図を兼ねる
・各階平面図　S=1/100
・立面図・断面図　S=1/100　各１面以上
・その他設計の説明に必要な図 (スケッチ、ダイアグラム等)、設計趣旨
模型：プレゼンテーション模型。材料及び表現方法は各自設定。
　　スケールは S=1/50


菊地 ゆず「路地のある家」

山田 遼真「PENETRATION」

菊地 遼「不安安心」

草薙 あすか「樹の概念に住む」

星野 友佳「自然を感じる家」

山田 侑奈「つつむ」

１年次・後期　設計計画 I – 1

自立する屋外空間

武蔵野美術大学鷹の台キャンパス内に、角材 (30mm×40mm×3000mm) による架構で、「自立する屋外空間」を原寸で作成する課題である。
「自立する」とは、地面（階段、スロープを含む）からそのものだけで立ち上がり、支えられていない状態を意味する。したがって、上から吊ったり、壁などにもたれかけたりすることはできない。
原寸での制作はグループで行う。

授業プロセス
１. 場所の決定
２. 架構の決定
３. 架構の制作

飯島 裕也・佐藤 優樹・棚野 采由・草薙 あすか・中島 理沙・成田 七海・山田 健人「通過以上滞留未満」

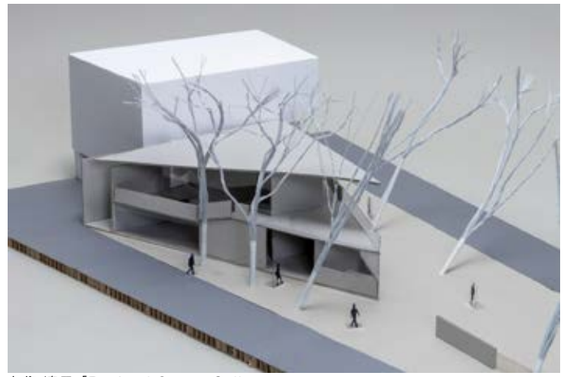
石毛 桃子・末﨑 詠乃・兵藤 眞子・小河原奏也・永原 由崇・米澤 拓紀「ヒトトキ」

菊地 遼・中島 啓太郎・森山 瑛介・市川 由貴・田中 芽生・保坂 瑞季「無意識」

設計計画 I – 2

道沿いの展示空間

武蔵野美術大学鷹の台キャンパスを二分する新しくできた道路 (小平３・３・３号線) に面する 13 号館横の駐輪場に、ギャラリーを計画する課題である。
このギャラリーは学内者だけでなく、キャンパスへの来訪者、近隣住民、道路を通学路に使う学童などが立ち寄れる開かれた性格を持つものとする。
また、このギャラリーは「境界」を意識した計画とすること。「境界」とは、関係性や繋がりの間に存在する。ここでは大学と地域、来訪者と学生、外部と内部、作品と鑑賞者などなど、様々な関係性が考えられる。そのような関係性のデザインから生まれるギャラリーを設計しなさい。
設計条件
１. キャンパス外からの来訪者も迎えるギャラリーの計画。
２. 展示用空間（室内）は 100㎡程度とし、外部空間も提案すること。
３. 展示物はある期間ごとに変わることを前提とする。
４.「境界」の意図を明確にし、図面には道路との位置関係を示すこと。
５. 敷地内の樹木は伐採しないこと。


久住 遼馬「Revived Space Gallery」

竹岡 怜音「跨ぐ」

リュウ シンエツ「FOCUS」

第一課題
玉川上水沿いの住宅

玉川上水沿いの敷地に住宅を計画・設計しなさい。周辺は緑多い静かな環境で、戸建住宅や団地のほか、こもれびの足湯（廃熱利用の温浴施設）、CAZE CAFE（障害者支援施設・カフェ）などが近接する。
敷地が南面する玉川上水沿いの遊歩道にはさまざまな人々が行き交い憩っている。家族のプライバシーを守りつつ、ここでしかできない暮らし方を自由に想像し、周辺の自然環境・社会環境と良い関係性をつくる住宅を設計しなさい。
タイトル（テーマとなるキーワード）を決めること。

設計上の留意点
・上水沿いの景観・方位・季節の変化・日射採光通風・樹木
・プライバシーと外に開くこと・構成に合う構造形式

第二課題
小規模集合住居

都心エリア駅近の利便性高い場所に、延床面積 400㎡の集合住居を計画・設計しなさい。集合住居の形式は、共同住宅・シェアハウス（共用空間があるもの）または長屋（共用空間がないもの）どちらも可とするが、「コモン」についての考えを各自何らか表現しなさい。
カフェやオフィス、集会場など、有用と考える施設を併設しても良い。
タイトル（テーマとなるキーワード）を決めること。

設計上の留意点
・ユニットプランとその組み合せ方（構成の型）
・日射採光通風
・周辺環境との関係性
・プライベート・コモン・パブリック（他者との関係性）
・構成に合った構造形式

伊藤 那央也「TOPOS BY TRACE」

一條 遥貴「家のような環境のような」

恒谷 京伽「気配を感じる家」

杉戸 日向子「新・ナカノ商店街」

奥田 涼太郎「Songpost」

高野 夏実「ASOBIBA ○ ~ 視線のつながる空間 ~ 」

第一課題
木造の駅舎 ―木造軸組架構から考える

高尾登山鉄道の清滝駅は、高尾山へ向かうケーブルカーの乗り口である。京王電鉄の高尾山口駅を出てしばらく歩くとここに着く。
高尾山は年間の登山者数が 260 万人を超え、世界一の登山者数を誇る山である。低山ながら多様な植生などに恵まれ、都民の憩いの場となっている。現在、三角屋根の清滝駅がある。そこを敷地と設定し、新しい清滝駅を提案しなさい。また駅前広場も設計するものとする。

条件
規模：建築面積は現状程度
構造形式：木造軸組で、基本平屋と一部２階を設けてもかまわない。
駅舎機能：切符売場、改札、待合、ホーム、トイレ、事務室ほか。
ホームは同位置とし、横にあるリフトの駅舎は課題の対象とはしない。
＋α機能：高尾山でのアクティビティと連動可能な施設を複合させる。
用途は各自設定。半屋外空間は提案可能だが、必ず屋内空間も組み込むこと。

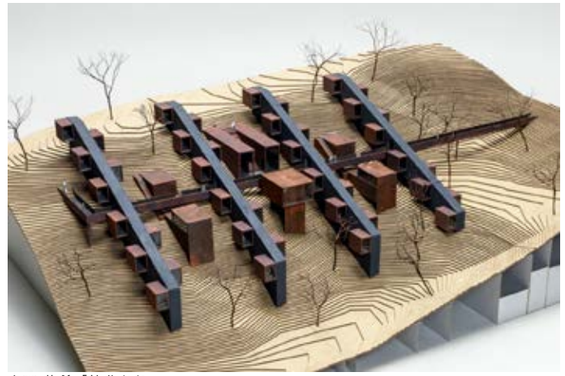
第二課題
新たな世代のための宿泊研修施設

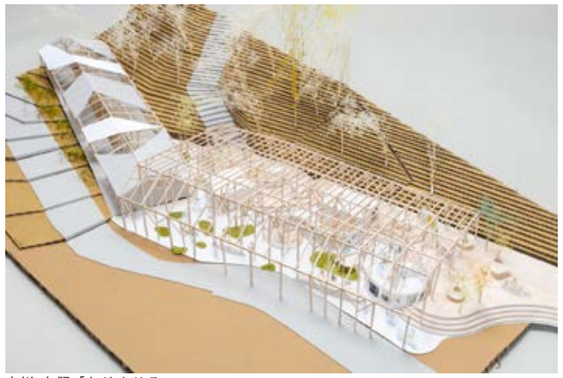
場所は、八王子の山の中にある大学セミナーハウス。この大学協同の宿泊研修施設は、吉阪隆正によって配置計画並びにさまざまな研究棟およびそれに付随する施設が設計された。近年老朽化を理由に一部が取り壊され、原設計に見られたユニットハウスといわれる分散型の宿泊棟は大部分が姿を消し、吉阪建築を愛する人々にとっては心苦しい状況となっている。この施設ではさまざまなタイプの共同生活を想定した建物があり、学生や先生がそこにある期間滞在し、研究発表などを通じて交流し理解を深めることのできる空間となっている。
今回の課題は、指定された範囲内に下記の機能をもつ建物あるいは建物群を設計する。敷地は、傾斜の激しい部分、平らな部分を含むが、各自、自分の計画にあった敷地を想定し完成させること。
1.40 名が宿泊できること。2. 研究発表などができる集会室。3. サークルの合宿を具体的に想定する。4. 自炊設備、洗濯、共同の浴室。5. 屋外 BBQ スペース、それに必要な設備等。

福士 愛美「内側に感じる」

始良 壮志「変動型住居空間」

新井 未知瑠「山間廊」


大西 悠希「枝分かれ」


吉川 布記「なじませる。」

鈴木 香耶「Integrate　一体化する」

源スタジオ
建築のタッチ（筆致）―くにたち美術館

建築を語るとき、プログラム、空間、比例、動線などなど、さまざまな言葉が使われてきた。それぞれ、建築の一つの側面を語る言葉である。時代、社会状況の変化とともに呼応して建築のある側面が時代の建築的問題として関心が払われることがある。しかし、これらは建築の一側面であり、そこにそれほど関心の集まらない時代、状況も存在している。
この課題では建築をタッチという側面から考えてみたい。タッチは建築を語る言葉として通用している言葉ではなく、その解釈の幅は相当に広くなるだろう。あなたなりにタッチを考えて、その側面から建築やその周辺環境を形にしてゆくとしたら、どのように試みるかを考えなさい。
この課題でタッチを介してギャラリーと作品の関係を考えるとともに、美術館的な性質だけでなく居場所という性質もあわせ持ったギャラリーを提案すること（ギャラリー・作品と人のタッチを介した関係）。

島田 恵里花「雲間の美術館」

高嶋 佳樹「建築学的多次元時空の考察」

吉田 卓「Build a relation」

高橋スタジオ
都市の環境単位 ―武蔵新城

都心では、巨大再開発によって、既存の周辺と不連続な環境単位が出現し続けている。一方で、界隈性をもちコンテクストが豊かなエリアには、その自然発生的で時間をへた資源が再評価されながら、ところどころに課題を抱える環境単位も存在し続けている。
対象エリアの中で、ひとつの建築的実践によって周辺との関係性が再構築され、あらたな風景や人の行為が生まれるような場所に、建築を構想し設計しなさい。
対象エリアは武蔵新城。JR 南武線 武蔵小杉と武蔵溝の口の間に位置し、利便性と生活環境の良さから若年層住民が多い。近年、若手オーナー・建築家やデザイナーが、街のあらたな動きを生み出している。「パブリック性の高い用途（内容は自由）＋住居（単身、家族、シェア、SOHO、ゲストハウス）」を各自で設定する。規模は敷地の法的与件内で実勢を把握しながら適切に計画する。敷地内で完結せず、周辺のコンテクストに対する積極的介入を必須とする。

大月 菜子「武蔵新城 Co-living」

飯島 あゆみ「心の拠り所」

鈴木 正義「Re Lation」

小西スタジオ
集積する構造によって複合施設を設計する

空間のコンポジションを秩序ある構造をもってどのようにコンストラクションするか、を考える。建築と構造のバランスに思考の重点を置き、全体を包括できる秩序を持った構造デザインを発見することで、建築デザインや計画の質がより高まることを求める。
再開発の進む、渋谷・神宮前に、商業施設＋宿泊施設の複合施設を提案しなさい。
現在渋谷は大規模な「再開発プロジェクト」が行われている。駅周辺の超高層建築群では回遊性のある歩ける街への仕掛けや、観光施設が計画され、益々多くの人が集まる場所として、様々な価値観や文化の融合が進む個性的なエリアとして、大きく変貌を遂げようとしている。
敷地は、表参道から徒歩 5 分、渋谷駅から 10 分の立地である。渋谷から表参道を繋ぐ動線をより活性化させるような設計提案を求める。

今成 夢来「Pilier」

古川 隼也「水の柱」

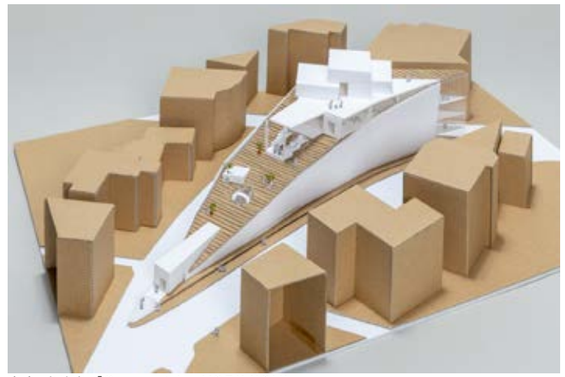
代々木 良太「都市の籠」

菊地スタジオ
神宮前に作るストリートカルチャーの郷土資料館

この界隈は、ストリートカルチャーの重要な発信拠点としていつの時代も重要な役目を果たしてきた。現在は、渋谷、表参道、原宿、神宮前、竹下通り、明治通り、キャットストリートと広範囲にわたって町同士が接続し、町としても新陳代謝を繰り返しつつ発展してきている。そして、2020 年の東京オリンピックに合せて新国立競技場が千駄ヶ谷にできることを契機に人の流れは大きく変わろうとしている。
外苑前駅、千駄ヶ谷駅、信濃町駅だけではスタジアムの人の流れを裁ききれないだけでなく、暗渠である隠田川の上を走るキャットストリートに沿って人が大きく移動してくることが考えられる。そのとき、今までそれほどポテンシャルを持っていなかったキャットストリートのエンドであるこの敷地がスタジアムと原宿側を繋ぐ重要な拠点として生まれ変わるだろう。そこでこの敷地を都市的文脈をふまえつつ、過去と未来を繋げるストリートカルチャーを扱った郷土資料館を提案してほしい。

荒明 一眞 「Lower」

黒田 真帆「青天井の資料館」


水上 さゆな「Connect by YORIMICHI」

鈴木スタジオ
共生がつくるかたち ―アフターコロナのワーケーション / 二拠点居住

新型コロナウイルス感染症の拡大は、私たちの暮らし、働き方を大きく変えた。それに伴い、ホテルや旅館など観光地や自然の中で働く「ワーケーション」や、都市と地方の両方に拠点を持って働く「二拠点居住」など、働く場所や空間からライフスタイル自体を見直す動きが広がっている。ワーケーション、二拠点居住を前提とした宿泊施設、あるいは住宅を設計しなさい。敷地は長野県大町市の山中にある古民家の敷地、麓の盆地に位置する民宿の敷地の二つから、プログラムの提案内容に合わせて選ぶこと。選んだ敷地の周辺の資源や生き物を発見し、それらと共生する新しい建築のかたちを提案しなさい。

敷地概要：長野県大町市。市の西部には北アルプス、東部には長野市との間に山々が連なり、その間の盆地には高瀬川が流れ、水資源が豊富な場所である。
設計条件：プログラム：ワーケーション、二拠点居住を前提とした宿泊施設や住宅、それに付随する店舗など自由に提案すること。建物だけでなく、敷地全体を使った提案とすること。

ヴィンセント 涼美「36°35'49.0"N 137°53'31.2"E」

高谷 竜太「集いの火処」

水上 さゆな「自然の集う場所」

布施スタジオ
西国分寺プロジェクト ―企画提案によって新しい可能性を提案する

西国分寺駅は中央線と武蔵野線の乗換駅だが、駅としての魅力に欠けていて特に北口は駐車場と駐輪場である。国分寺市は西国分寺駅北口周辺まちづくり計画を進めており、住民アンケートや現況の調査分析の資料が公開されている。この「西国分寺駅北口周辺まちづくり計画」を参考にして、西国分寺駅北口の敷地のポテンシャルを最大化する計画を設計提案すること。そして単なる複合施設ではない、新しい建築の可能性を提案しなさい。

妹尾 毬乃「2nd station NISHIKOKU」

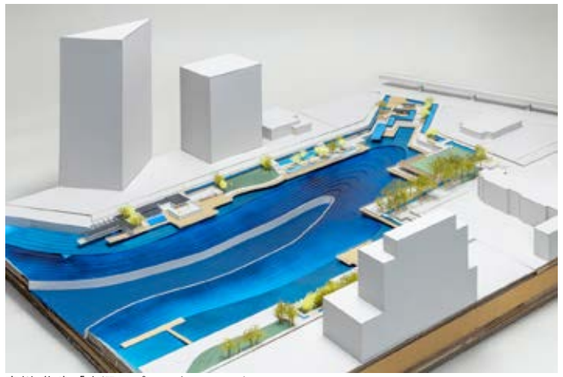
鈴木 正義「新たな動流」

高嶋 佳樹「都市の歪みをモンタージュする」

長谷川スタジオ
豊洲の水辺 ―2020を私たちのライフスタイルの転換点として

今年、コロナの影響により私たちの生活様式は大きく変わった。
それは悪いことばかりではなく、ある意味で本来進んでいく可能性があったライフスタイルを半ば強制的に勧めてくれた感覚もある。一番大きな変化の一つが「仕事（勉強）をする場所」または、なににおいても「集まる場所」への感覚の変化だろう。それは、集まり方のバリエーションが飛躍的に多様化したということである。結果として都心のオフィス需要はすでに低下し始め、居住している場所で過ごす時間が増え、または住む場所を自由に選び、外で過ごす時間の多様化が始まりつつある。
豊洲は都心に近いけど都心ではなく、オフィスもあるけど住んでいる人も沢山いる。近年急激に開発が進んだエリアだが、他の新しい水辺と同じようにスーパーブロックによる開発が人のスケール感を失くしてしまったようにも見える。ここでもう一度水辺という大きなポテンシャルを生かしながら、これからのライフスタイルにふさわしい新しい水辺をデザインしなさい。

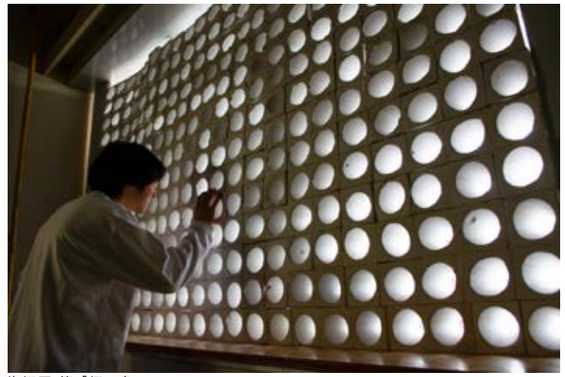
半田 心「交わる視線の中で」


古川 隼也「水辺のプラットフォーム」

山口 雄輔「Toyosu Connection」

土屋スタジオ
東京散歩「場所のもつ記憶と力」

「場」とは多様な解釈を生むが、それぞれが独自のアプローチによって交差するところを「場」と捉え、そこから新たなる表現を創造する。
大都市東京は他に類を見ない程複雑で、流動的且つ個性的な都市である。この不思議な構造をもつ東京を、縄文地図を持ち、垂直的な時間軸と連続しながら散策・考察することで、見慣れたはずの東京の相貌が、また別な視点で捉えられるのではないか。我々の足元には様々な神話的時間が流れている。遠い過去の記憶と現在を一つに結びつけることも創造的冒険である。


海江田 篤「灯の奥」

肥田 栄輔「東京が散歩」

山本 莉花子「ぬいぐるみの東京」

源スタジオ
オフグリッドの体験学校

自分の未来は自分の手で作るしかない時代になっている。
木造で以下の条件のもとに提案、設計しなさい。
・管理人棟　どんな環境制御技術を採用するか
・ビジターセンター
体験教室：来訪者が環境制御技術に実際に触れて理解する。ギャラリー：どんな環境制御技術があるかを知識として学ぶ。セミナーが開催できる場所。
・体験宿泊施設　20 人程度が宿泊する施設
参加者が現在、緊急事態宣言による自粛の解除された地域に暮らしている場合はその地域から、自粛未解除地域で生活している場合は何年か生活したことのある環境をよく知る地域から、オフグリッドの学校にふさわしい敷地を見つけて課題地に設定すること。その地域の気候環境に適したオフグリッドの方法を探し出し、提案、設計する課題とする。自粛が解除された地域であっても敷地を調べに行く場合は十分に感染予防に注意し、近隣の人の気持に配慮すること。未解除の地域の人は自身の記憶やネットから得られるデータによって、すすめること。

板倉 圭吾「密やかな恵」

水越 虹薫「木に触れる - 林業のエネルギー利用 -」

一色 淳之介「Heart and environment」

鈴木スタジオ
地域特有の魅力をひきだすしかけ

ある地域の、歴史的文化的な資源・町並み（建築群）・地域活動等の良さをみつけ、その価値や機能を維持するための課題や問題点を明らかとし、それを高めるためのしかけを計画し、既存建築（または建築群・町並み）の改築･増築や、新築をとおして、地域特有の魅力をひきだす建築設計を行う。
授業の進め方
1. みる　講師からの事例紹介、各自の対象地及び地域資源を検索
2. さがす 地域のいいところ探し、地域資源を知る、既存建築・建築群・町並みをスケッチし、計画提案の検討材料とする
3. かんがえる 地域の現況をまとめ、課題を整理する、プログラム、提案を検討する、地域計画、建築的提案
4. つたえる スケッチ、ダイアグラム、図面等様々な表現により計画内容を伝える
対象地域（市町村、区域、商店街等）の選定方法
1. 自分の故郷など慣れ親しんだ地域　2. 現在住んでいる地域　3. 課題出題者が提供する地域

平山 桃夏「蒲田の 3 つの地域資源を銭湯ストリートで受け継ぐ」

御手洗 宇哉「調街 -Tsukimachi-」

田澤 杏梨「川根で見つける新しい田舎暮らし」

高橋スタジオ
「外包する建築」とは

「〇〇を内包する建築」という言葉をしばしば目にする。建築も何を内包するかで生まれる目新しさを競うゲームのようで、今建築とされるものがなんなのか、とても不明瞭な気がしてならない。建築がいろいろなことを取り込んで「内包」してそのバリエーションを増やす消費的な態勢を見直し、一度そこから切り離れて単純に新しい建築は何か、についてみんなで考えてみたい。そこで今まだ日本語にはない言葉、「外包」について考えてみる。
「外包」の論理が当てはまる場所を都内を中心とした特定の場所で念密な設計をしなさい。

条件
設計する規模は 100㎡以上
個人住宅の敷地内のような閉じた環境で設計しないこと
インスタレーションにならないよう、周辺のプログラムとの関係を明確にすること

二又 大瑚「都市のヴォイドとしての自律性」

藤井 康仁「広がりと質実さの牛舎」

税所 飛駆「導きのあかり」

布施スタジオ
「階段」が決める建築

テーマは「階段」
階段は建築に圧倒的な可能性をつくり出す。
縦への移動は、建築に階層を生み、空間に高さという変化を生み出す。また、その形から空間の重要なアクセントにも、空間体験の欠かせない装置ともなり得る。
建築には様々なエレメントがあるが、今回はそのひとつである「階段」をきっかけに建築を考えてもらいたい。階段はいたる所にあり、見慣れた存在ではあるが、今一度それを見つめることで、階段の持つ可能性と、階段によって生み出される建築の魅力を表現してもらいたい。

成田 未侑「空間を分節する階段」

キュウ インガ「Spring - 階段がつなぐ自然 -」

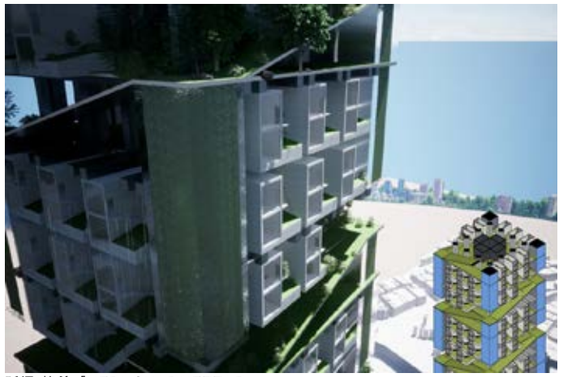
福田 奈々美「roof steps apartment」

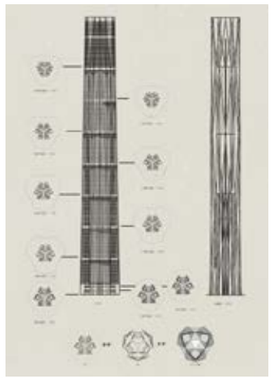
小西スタジオ
100 階

100 階建ての建物を西新宿に計画する。
日本には、まだ 100 階建ての高層ビルはないし、その必然性の有無については、この課題では議論しない。ここで試みてほしいことは、100 階建てに何らかのリアリティを与える用途を想定し、その用途に相応しい構造的アイデアを用いて、用途と構造が不可分に統合された建築を計画することである。

敷地：西新宿にある既存の高層ビルが建っている場所で、どこか１箇所を選び、そこを敷地とする。
用途：敷地を考慮した用途を自分で設定する。
構造：外部または内部、あるいはその両方にアイデンティティを与える構造的なアイデアとする。
その他：地上のアイレベルでの見え方と、遠方からの建物全体の見え方が、両方とも魅力的な景観となるように配慮する。

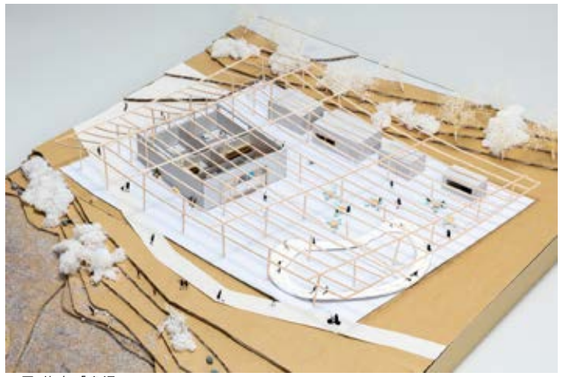
砥堀 祐希「NEBUCHADNEZZAR」


砥堀 祐希「NEBUCHADNEZZAR」


チョウ シエツ「垂直都市 :Anadem Tower」

菊地スタジオ
石を学び、石から建築を考える

足元に転がる石。どこから来たのか、何から出来ているのか、なぜそのような模様や色になっているのか。
石を実際に採取・観察し、調査・研究を行う。石を理解し、石の持つ魅力や特徴を引き出す。その上で、どのように建築として空間・形態・表現へ利用・応用できるかを検討し形にする。
調査
・事前に身近な川や公園などで石を採取
・石の意外な使われ方、表現方法などの事例を調査
中間発表
・新たな形態、空間ができるか拾った石を使って表現
・設計するプログラム（用途、敷地等）の選定
最終発表
・プログラム、コンセプトの説明（テキスト、写真、ダイアグラムなど）
・空間や造形の説明（図面、パース、模型）


一尾 佳奈「泉湯」

浅見 和日「岩の佇まい」

市川 千夏「建築を編む」

長谷川スタジオ
これからのオープンスペース –ポストコロナを見据えて

新型コロナウィルス感染症による外出規制中、私たちは住居空間で過ごすことが多くなり、近隣の公園や緑道などを利用する人が増えている。屋外でのジョギングや散歩､あるいは体を使った遊びの欲求を再認識している｡またピクニックや菜園、庭仕事など屋外を積極的に利用する人々も増えているようだ。
一方で、リモートワークなどの普及により、住まいと職場あるいは学習空間の距離的、空間的な再編成も生まれてくるだろう。このような状況を踏まえ、ポストコロナを見据えた「これからのオープンスペース」とはどのようなものがあり得るのか課題を通して考えていきたい。
考察のテーマ
・コロナ 前・今・後は「どうだったか・どうなっているか・どうあるべきか」を考える。・コロナ以前にも社会問題化されていた事は何か。サスティナブルな社会へのシフトなど、自身の関心がある社会問題とセットでオープンスペースを考える機会とする。・今後感染症の時代が来ると言われている中で、日常と緊急事態（防災）がサイクルで訪れる社会を想定して考えてほしい。

大西 加那子「NOBISTOP」

長谷川 ゆい「がっこうえん」

前田 汐理「寄りみち～曲がった先に～」

土屋スタジオ
表現の場

毎日作品を作りましょう。手と頭をフル回転させて。
五感を研ぎ澄まし、そして、あなただけが持ち得る第六感も駆使して。
自分の手から産み落とされるものには、自分自身の気持ちがよく表れる。
それは“今”に対する表れであり、また“過去”や“未来”とも密接に接続している。今あなたの手から産み落とされるもの、言葉になる以前のカケラを、じっくりと見つめること。そこには“あなた自身も気づいていなかったかもしれないあなた”が映し出される。
“何かを問う”ているのかもしれないし、“何かに応えている”のかもしれない。
そして、学生同士・教授・講師の皆で共有し、刺激しあい、さらに育てていく。
各々のテーマをみつめ、それに沿った、表現をしていく。
この授業では、原点である自分に立ち返ること。そしてあなたにしか産み出せないものを育み自立させていく場である。
既存のジャンルや垣根にとらわれることなく、あなた自身の表現を見つめ直し、育み、そして拡張させること。

加藤 麻那「道を編む」

山岸 尚史「生活」

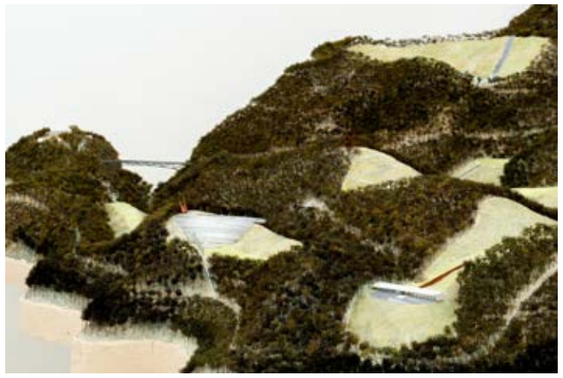
金丸 茜「痕積」

卒業制作　金賞・優秀賞（学校賞）

作られすぎた風景

大西 加那子｜長谷川スタジオ｜ランドスケープ設計

日本における山間ゴルフ場は見方によっては不自然な自然、作られすぎた風景とも捉えられる。しかし私たちはそこに立とうとも、どれだけの山が削られ谷が埋られ作られたのか、実感することはできない。そこで特徴的な９コースを残し、それ以外の場所をかつての地形へと作り戻す操作をした。そうすることによって新旧地形の落差が法面として可視化され、身体的にも視覚的にも地形操作の実際を体験することができる空間となった。



銀賞

Tokyo Sunken Line

長谷川 ゆい｜長谷川スタジオ｜ランドスケープ設計

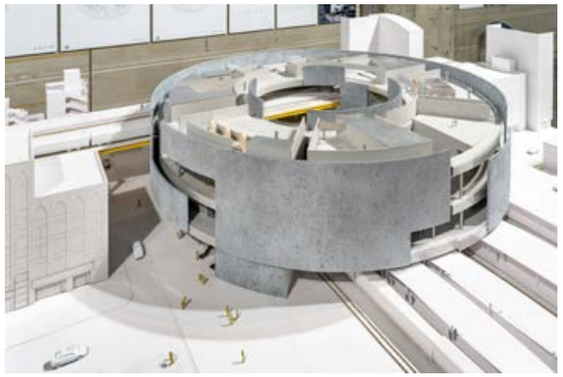
江戸城を守り、まちの水循環を担ってきた線状の凹地、江戸城外濠。しかし、現代において、外濠は防衛の機能を失い、水循環という環境面でも切り離され、人々の認識からも遠のいたまま、まちに存在している。そこで、外濠の途絶えた環境を繋げ直すと同時に、まちと切り離さすようにつくられた外濠の空間形態を肯定的に捉え、密集した東京から少し切り離された空間の気持ち良さ、開放感を味わえる都市のグリーンインフラとして、この場所を提案する。400年というもの間まちの骨格を担ってきた外濠が、循環する環境としてこれからまた何百年と時間を蓄積していく場所となっていく。

卒業制作　銅賞・優秀賞（学校賞）

図式と都市

二又 大瑚｜布施スタジオ｜建築設計

コンテンツの凝縮される都市空間に対し、自律的な図式をもつ建築を提案する。
図式を都市空間と応答しながら構成することによって、副次的に余白を形成し、都市・建築における場所性の認識の拡張を行う。敷地は都心へのアクセスを図る主要ターミナル駅である西船橋駅である。西船橋は埋立地や田畑であったため、矩形の街区によって形成されており、それを都市のグリッドと見立て、都市骨格と定義する。自律的な図式によってこの都市骨格を逆説的に浮かび上がらせ、グリッドの持つ町の再解釈によって、新たな計画の都市像へと飛躍することを目指す。また、それとともに乗換駅における待ち時間の空間体験を図式によって構想することで、新たな駅の形式を模索した。



優秀賞（学校賞）・奨励賞

ノコギリと矩形

近藤 直輝｜布施スタジオ｜建築設計

ノコギリの形をした立面と多くの線材から構成される屋根架構を持つノコギリ屋根。愛知県一宮市はかつて繊維業が発達し、その工場として機能したノコギリ屋根が多く点在しており、現在では繊維業の衰退によって多くのノコギリ屋根が機能を失い形態だけを残している。
かつて必要とされた形態が現代において、必要とされなくなるという状況はこの地に限らず各地で起こりうることだ。スクラップアンドビルドの時代は終わり、既存の形態を再解釈し、どう現代・未来に位置付け直すかということがこれからの建築には重要ではないか。本計画はノコギリ屋根という既存の形態に対しての新たな建築像の提案である。

卒業制作　優秀賞（学校賞）・奨励賞

川根町の地域資源

田澤 杏梨｜鈴木スタジオ｜建築設計

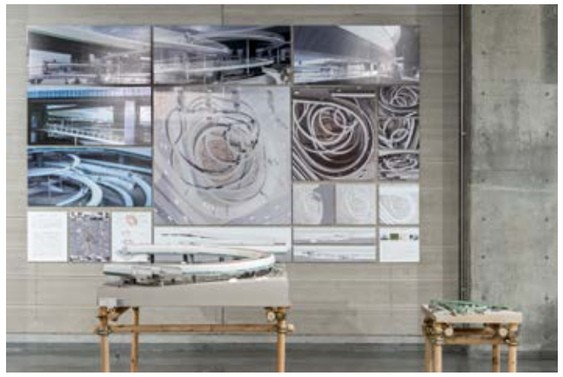
静岡県中部に位置する川根町は「川根茶」の生産地として知られる自然豊かな町である。しかし人口の減少などにより農林業、茶農業の後継者不足が目立ってきている。そこで川根の地域資源を町からピックアップし、要素やストーリーを加え、地域資源・観光客・地元の人を繋げる場所を作る。川根の地域資源や景観を堪能し、お茶コミュニティの体験を提供する分散型敷地計画の提案。実際私は今、この川根の地で空き家改修を行っている。この計画に止まらず、提案を繋げ川根全体にもコミュニティを広げることを目指す。

優秀賞（学校賞）・奨励賞

土木空間に沿って

藤井 康仁｜布施スタジオ｜建築設計

今の世の中の日常には綺麗すぎるものが溢れ、何をとっても似たように思う事がある。もっとラフな空間に人間が介在する非日常的な贅沢があると考えた。土木の空間にはそのポテンシャルがあり、それがある種、開放的であり自由ではないだろうか。
敷地は練馬区の大泉 JCT。その中に遊歩道と自転車のレーン、トラックを配し、高架とスロープによる様々なシーンをつなぎ合わせグラフィカルな JCT と同調するように立体的に構成した。土木空間の余剰を至れり尽くさない公園として設計した。

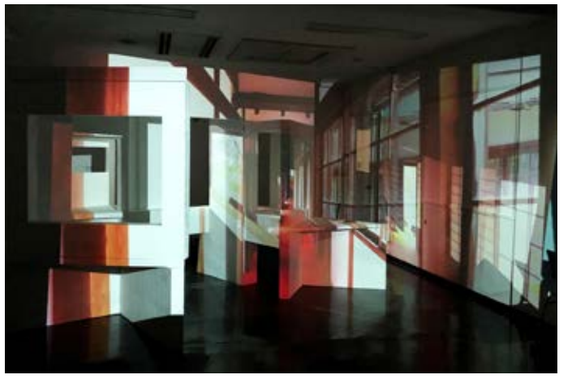


卒業制作　奨励賞

仮想現実の外側

前田 汐里｜高橋スタジオ｜インスタレーション

covid-19 によりリモートやデジタル化が促進され、現実と非現実が混ざり合うことが日常となった今、虚構を建築の新たな軸として捉え直す分岐点にあるのではないか。
本作品では「内と外を見立てる」をテーマとし、立体スクリーンに内外の映像を投影したものだ。臨場者は、立体が持つ内外の空間的特徴と映像が想起させる内外の空間的情報をコラージュし、実際には存在しない新しい空間を想像し歩く。そこには現実と非現実が呼応する現象としての空間がある。制作者の意図が強制されたこれまでの仮想現実空間ではなく、三次元的側面からの視野を持ち、立体と映像を自由に結び・想像できる新たな空間の可能性に迫れたと思う。



大学院　修了制作　優秀賞

一日の流れの特異

矢舗 礼子｜布施スタジオ｜建築設計

設計の中で、長方形を切り空間を構成するパーツが生まれたら、残りのパーツはどこに活きるのか。
スケールの異なる空間を複合させた時どう変化するのか。
構築する中で個々のつながり方のちぐはぐが増殖し、その小さな変化を持つ。
研究を通して宗教的な空間性から自身と空間の結びつきにより、自身がいる空間を無意識に分析し呼応していく。
空間の知覚までの「タイムラグ」の空間性と空間構成自体のちぐはぐとが絡み合い各々にとっての「印象」を生んでいく。

社会での活動

カリキュラムの一環として社会連携による設計課題を設けることや、課外活動にて積極的な企画参加をしています。

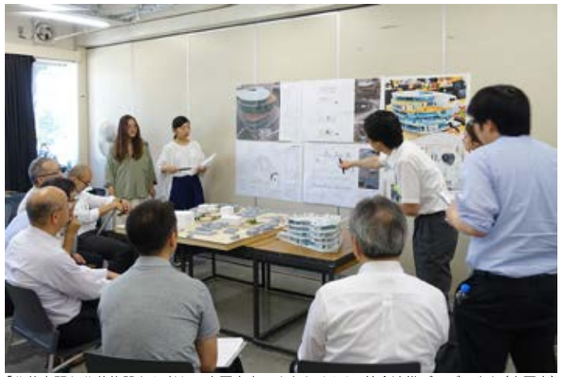
建築学科では、企業や自治体とのコラボレーションで、地域コミュニティづくりに実践的に関わるプロジェクトに参加し、建築やアート、ランドスケープの領域を横断して社会に向けた提案を行っています。
また海外の大学との共同ワークショップや訪問教授の招聘など国際交流プロジェクトも多数実施し、世界へ向けて発信していく人材の育成に取り組んでいます。

■ 2010 年度以降の学外プロジェクト
愛知県額田天使の森アートプロジェクト / 茨城県旧八郷地区・アートサイト八郷 / 太田駅北口駅前文化交流施設ワークショップ / 神楽坂プロジェクト / 笠間の菊まつりプロジェクト / 鎌倉御成町プロジェクト / 近代化産業遺産愛岐トンネルプロジェクト / 高知県佐川町プロジェクト / JR 中央ラインモール計画 / 瀬戸内・女木島プロジェクト / 常盤平アートセンタープロジェクト / 徳島県勝浦川環境アートプロジェクト / 松戸アートラインプロジェクト / 横浜黄金町再生プロジェクト / ららぽーと立飛スペースデザインプロジェクト / 陸前高田市今泉地区移転計画プロジェクト / 横瀬町プロジェクト / 小平市連携プロジェクト「公共空間と公共施設から考える小平未来のまちとくらし」

■ 2010 年度以降の国際交流プロジェクト
「すき間」から考える新しい住まい方 (デンマーク王立芸術アカデミー建築学部)/ チェルシー・キャンパス・プロジェクト (ロンドン芸術大学チェルシー・カレッジ・オブ・アート・アンド・デザイン) / 地下探訪―都市形成の変遷とカタフィル文化の考察 (パリ国立高等美術学校)/ 訪問教授フィリップ・ペヌカン (フランス)/ 訪問教授ハッリ・コスキネン (フィンランド)「Light Matters」/ 訪問教授ソフィー・クレール (オランダ)「Field Essays Workshop “matter that matters”」/ 訪問教授エンリック・マシップ (スペイン)「ラーバン」

「集積あるいは変化するストラクチュラル・アート」学生サマーセミナー（日本建築学会）

「フューチャースケープ・プロジェクト」象の鼻テラス開館 10 周年記念展（象の鼻テラス・横浜市）


「公共空間と公共施設から考える小平未来のまちとくらし」社会連携プロジェクト（小平市）

「影絵ワークショップ」紅葉とたてもののライトアップ（江戸東京たてもの園）

「武甲山の見える高台に作る素敵な場所の提案」官学連携プロジェクト（横瀬町）

「絵ほんかわごえ」（NPO 法人川越蔵の会）

施設紹介

鷹の台キャンパス・８号館３階が、建築学科の専門科目を学ぶメインフロアになります。

建築学科研究室｜教員の個人研究室が集約、建築学科の各種窓口となります

展示スペース｜普段はフリースペースですが、作品の展示・講評も行われます

製図室｜ 1-3 年生まで学年別の製図室で設計課題の制作を行います

撮影スタジオ｜課題で制作した作品の撮影を行うことが出来ます

講義室｜建築学科専門科目の講義のほか、イベントや発表なども行われます

工房工作室｜工具を用いての加工や部材の組立て、実習授業の教室として使用します

ゼミ室｜ 4 年生は所属するスタジオごとに制作を行います

工房加工室｜パネルソーやスライド丸ノコ等の加工機械を使用して作業が出来ます

教員紹介

多彩な専門分野・研究テーマをもつ教員が、学生ひとりひとりの関心に合わせて指導します。

小西 泰孝 主任教授

小西泰孝建築構造設計 主宰

http://www.konishi-se.jp/ksl/

1970 年千葉県生まれ。95 年東北工業大学工学部建築学科卒業。97 年日本大学大学院理工学研究科修士課程修了。97 年佐々木睦朗構造計画研究所入社。2002 年小西泰孝建築構造設計設立。17 年 ~ 武蔵野美術大学教授。主な作品 (構造) に「神奈川工科大学 KAIT 工房 (石上純也、2009 年日本建築学会賞、第 3 回日本構造デザイン賞)」、「上州富岡駅 (TNA、2014 年日本建築学会賞)」、「立川市立第一小学校 (シーラカンスアンドアソシエイツ)」、「中国美術学院民芸博物館 (隈研吾)」など。

—専門分野・研究テーマ
構造デザイン、構造設計、構造力学。建築を主とし、その他、工作物、橋梁、什器、インスタレーションなどを含んだ、様々な規模・用途に対する構造デザインの研究。

—小西スタジオのテーマ
「構造」には、地震、暴風、積雪などの自然災害力に対する防御だけではなく、建築・環境のデザインや機能をより高めることができる力があります。建築と「構造」の融合を高い水準で図り、建築をより美しく、より豊かに、より安全にすることで、地域・社会に寄与貢献することを目指します。

高橋 晶子 教授

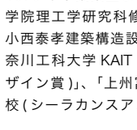
建築家 / ワークステーション 共同主宰

takahashistudio.tumblr.com
www.facebook.com/ 武蔵野美術大学 - 高橋スタジオ
-616957391733124

1958 年静岡県生まれ。80 年京都大学卒業。82 年東京工業大学大学院修士課程修了。86 年博士後期課程中退。86 ~ 88 年篠原一男アトリエ。88 年高橋寛とワークステーション設立。2004 年 ~ 武蔵野美術大学教授。主な作品に「高知県立坂本龍馬記念館」(JIA 新人賞他)、「アパートメンツ東雲キャナルコート」(BCS 賞他)、「芦北町交流センター」(日本建築学会作品選奨他)。著書に『パブリック空間の本』(彰国社)。

—専門分野・研究テーマ
建築デザイン。建築の空間構成・現象の研究、パブリック性をもつ空間の研究。

—高橋スタジオのテーマ
無意識に捉えている事柄を再定義し、あらたな発見を伴う建築を目指しています。建築の構成と現象を常に同時に考えることを意識し設計を進めます。



菊地 宏 教授

建築家 / 菊地宏建築設計事務所 代表

www.hiroshikikuchi.com/?dr=studio

1972 年東京都生まれ。98 年東京理科大学大学院修士課程修了。妹島和世建築設計事務所 (SANAA)、Herzog & de Meuron (スイス・バーゼル) を経て、2004 年菊地宏建築設計事務所を設立。10 年 ~ 武蔵野美術大学准教授。18 年 ~ 同教授。主な作品に「南洋堂改修」、「大泉の家」(住宅建築賞)、「畑の見える家」などがある。著書に『菊地宏 | パッソコンティヌオ—空間を支配する旋律』(2013 年、LIXIL 出版)。

—専門分野・研究テーマ
建築デザイン。さまざまな素材や方法による建築の表現方法の研究と実践。

—菊地スタジオのテーマ
建築の原始的姿から現代の建築を読み解く。特に建築の足元である地面に着目し、地形と都市、地形と建築、それにまつわるさまざまなことを包括的に捉えます。

鈴木 明 教授

www.facebook.com/akirasuzukistudio

1953 年東京都生まれ。77 年武蔵野美術大学建築学科卒業。79 年同大学院修士課程修了。新建築社編集部勤務を経て、86 年建築都市ワークショップ設立。2000~14 年神戸芸術工科大学 (01 年 ~ 教授)。14 年 ~ 武蔵野美術大学教授。主な作品に「建築教室」(ワークショップ)、「せんだいメディアテーク」「多摩美大図書館」インタラクションデザイン (設計 = 伊東豊雄)。著作・研究に『つくる図書館をつくる』(鹿島出版会)、「ル・コルビュジエ・モデュロールの身体図像研究」。

—専門分野・研究テーマ
建築デザイン、建築計画、建築論、インタラクションデザイン。社会的な活動としてワークショップによるまちづくり、建築批評や建築展 (企画運営)。研究課題として「セルフビルド建築研究」「ル・コルビュジエの身体図像に関する研究」など。

—鈴木スタジオのテーマ
３年生は、地域と環境に根ざした公共施設・公共空間を設計する。４年生は、まちや地域の捉え方、活性化の方法論を学び、建築の提案につなげていきます。卒業研究（論文と制作）は地域・特定の地区や街並みを調査して文化や暮らしを活性化する計画を行う。また各自が関心を持つ個別の研究を進めます。

布施 茂 教授

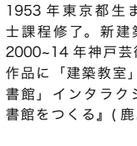
建築家 / fuse-atelier 代表

fuse-studio-musabi.com
www.facebook.com/fuse.s.mau
www.instagram.com/fuse_studio_musabi

1960 年千葉県生まれ。84 年武蔵野美術大学建築学科卒業。84 年東京工業大学工学部建築学科坂本研究室研究生。85 年 ~ 第一工房、95 年同設計部長。2003 年 fuse-atelier 設立。04 年 ~ 武蔵野美術大学助教授。06 年 ~ 同教授。主な作品に「全労済情報センター」(第一工房)、「群馬県立館林美術館」(第一工房)、「House in TATEYAMA」、「House in ABIKO」、「House in TSUTSUMINO」、「House in TSUDANUMA」、「House in KANNOU」、「House in JYOUSUI-SHINMACHI」など。

—専門分野・研究テーマ
建築設計。建築におけるシークエンス、空間の分節、プロポーション、素材、ディテールの探求。

—布施スタジオのテーマ
建築設計に特化したスタジオで、実践的な建築設計や実際の建築作品を通して建築の新たな可能性を探求します。



持田 正憲 教授

MOCHIDA 建築設備設計事務所　代表
※ 2021 年度より着任

www.facebook.com/mochidastudio/

1972 年神奈川県生まれ。96 年 工学院大学工学部建築学科卒業。設備設計事務所、組織設計事務所での設備設計実務を経て、18 年 MOCHIDA 建築設備設計事務所を設立。21 年～武蔵野美術大学教授。主な作品に「ROGIC -ROKI Global Innovation Center-」(小堀哲夫建築設計事務所、日本建築学会賞・JIA 日本建築大賞・BCS 賞)、「山形エコハウス」(羽田設計事務所・東北芸術工科大学)。著書に『ビル管理技術者のための設備のしくみがわかる本』(共著 オーム社) など。

–専門分野・研究テーマ
建築設備設計、建築環境デザイン、建築環境工学。建築と環境・設備の融合、建築と自然の共存、建築と人間の新しい環境。

– 持田スタジオのテーマ
環境・設備的な観点からの調査・分析やさまざまな体験・体感を通して、建築環境デザインを議論し、これからの地球環境時代に対する新たな答えを探ります。

長谷川 浩己 特任教授

オンサイト計画設計事務所 パートナー

musabi-landscape.net
www.facebook.com/musabi.landscape.hasegawa

1958 年千葉県生まれ。千葉大学を経て、オレゴン大学大学院修士課程修了。2009 年 ~ 武蔵野美術大学特任教授。「横浜ポートサイド公園」、「館林美術館 / 多々良沼公園」、「丸の内オアゾ」、「東雲 CODAN」、「星のや軽井沢」、「ハルニレテラス」、「日本橋コレドの広場」などで、グッドデザイン賞、造園学会賞、土木学会デザイン賞 (最優秀賞)、AACA 芦原義信賞、ARCASIA GOLD MEDAL、アーバンデザイン賞などを受賞。共著に『つくること、つくらないこと』(学芸出版社) など。

—専門分野・研究テーマ
ランドスケープ・アーキテクチュア。実務をともない、小さな庭から大きな都市スケールまで、コミュニティから経済的根拠までカバーしつつ、デザインの価値を考える。

—長谷川スタジオのテーマ
自分という部分から、風景という全体を考えていきたい。対象が大きく関わる人も多いので、スタジオではディスカッションを重視し、皆が共有できるビジョンを掲げられるデザイナーを目指しています。

永山 祐子 客員教授

建築家 / 永山祐子建築設計 主宰

http://www.yukonagayama.co.jp/
※スタジオは開設していません

1975 年東京生まれ。98 年昭和女子大学生活科学部生活環境学科卒業。98 ~ 02 年 青木淳建築計画事務所勤務。2002 年永山祐子建築設計設立。20 年～武蔵野美術大学客員教授。主な仕事、「LOUIS VUITTON 京都大丸店」、「丘のある家」、「ANTEPRIMA」、「カヤバ珈琲」、「SISII」、「木屋旅館」、「豊島横尾館（美術館）」、「渋谷西武 AB 館 5F」、「女神の森セントラルガーデン（小淵沢のホール・複合施設）」など。ロレアル賞奨励賞、JCD デザイン賞奨励賞、AR Awards（UK）優秀賞「丘のある家」、JIA 新人賞「豊島横尾館」など受賞多数。

—専門分野・研究テーマ
建築設計、人と環境・人と人が繋がるきっかけとなるデザイン

—学生に期待すること・メッセージ
私は建築に携わることで色々な世界に触れ、社会の仕組みを知ることができました。今後どんな方向に進もうと役立っていくと思います。

土屋 公雄 客員教授

彫刻家 / 環境造形アーティスト
※ 2021 年度末をもって退任

musabi-arc-tsuchiyastudio.info

1955 年福井市生まれ。89 年ロンドン芸術大学チェルシーカレッジ彫刻科修士課程修了 (99 年ロンドン芸術大学より名誉学位授与)。2001 年東京空襲平和モニュメント制作。04 年「記憶の領域」が文化庁買い上げとなる。04 年 ~ 武蔵野美術大学客員教授。朝倉文夫賞、現代日本彫刻展大賞、五島記念文化賞、英国 オナラリー賞、奈良県景観調和デザイン賞、本郷新賞など受賞多数。作品集に『所在』(アトリエ出版社)、『記憶』(美術出版社)、著書に『月を追いかけて』(ティルナノーグ出版)。

—専門分野・研究テーマ
環境造形、現代美術、アートプロジェクト。１分の１の感動体験と、実践的な活動を通し新たな表現世界を探求する。

—土屋スタジオのテーマ
建築とアートの領域をしなやかに超え、想像力と創作力を友として、未来を力強く生き抜くクリエイターを育てたいと願っています。

アストリッド・クライン 客員教授

建築家 / クライン ダイサム アーキテクツ 共同主宰

※スタジオは開設していません

1962 年イタリア生まれ。86 年エコール・ド・アール・デコラティーフ卒業。88 年ロイヤル・カレッジ・オブ・アート修了。88 年 ~ 伊東豊雄建築設計事務所を経て、91 年マーク・ダイサムと共同でクライン ダイサム アーキテクツを設立。2009 年 ~ 武蔵野美術大学客員教授。主な作品に「DAIKANYAMA T-SITE」、「相馬こどものみんなの家」、「GINZA PLACE」、「OPEN HOUSE Central Embassy」ほか国内外で様々なプロジェクトを手がける。D&AD Awards、WAF Awards、DFA Awards など受賞多数。

—専門分野・研究テーマ
建築設計、インテリアデザイン。

—学生に期待すること・メッセージ
見た人が建築に憧れを抱くような、行きたくなる、そこに居たくなる素敵な建築を作ってほしい。

講師

青木 弘司 (設計計画 III -2)
石井 秀幸 (設計計画 III -2)
伊藤 裕久 (都市デザイン B)
伊藤 友紀 (建築設計表現)
今村 水紀 (設計計画 II -2)
岩下 泰三 (図学)
上田 明宏 (建築施工 I / II)
上田 宏 (写真表現)
大野 暁彦 (ランドスケープデザイン近代史)
大森 晃彦 (写真表現)
岡本 真理子 (基礎数学、応用数学)
奥野 公章 (設計計画 III -1)
奥村 誠一 (建築構法、建築構法特論)
小倉 康正 (造形総合・デザイン II、
設計計画 I -1 / I -2)
笠置 秀紀 (建築設計表現)
加藤 修 (環境生態学 I / II)
金田 未来 (設計計画 II -1)
亀山 本果 (環境計画 b)
河内 孝夫 (建築設備・実験 II)
川嶋 貫介 (設計計画IV)
川村 政治 (建築設備特論)
河野 有悟 (建築設計基礎)
小林 敦 (建築設計基礎)
小松 宏誠 (設計計画 III -2)
後藤 武 (建築意匠 B)
齊藤 祐子 (設計計画 II -2)
阪 健吉 (建築材料学・実験 I)
佐藤 千佳 (建築法規 I / II)
三幣 順一 (設計計画 III -2)
渋江 桂子 (環境生態学特論)
杉山 経子 (建築材料学・実験 II)
鈴木 竜太 (設計計画 I -1 / I -2)
高沖 哉 (環境計画 b)
高野 洋平 (設計計画 IV)
田口 明美 (建築設備・実験 II)
田邊 寛子 (都市デザイン A)
田原 唯之 (設計計画 IV)
田宮 晃志 (設計計画 II -2)
常山 未央 (設計計画 III -2)
戸井田 雄 (造形演習)
中川 純一 (設計計画 IV)
中村 幸悦 (構造力学 I)
中村 文美 (設計計画 IV)
新関 謙一郎 (設計計画 IV)
林 英理子 (設計計画 IV)
針谷 將史 (設計計画 III -1)
平井 政俊 (設計計画 III -1)
藤原 工 (建築設備・実験 II)
細野 達哉 (庭園史)
増田 信吾 (設計計画 IV)
松井 晃一 (構造力学 II)
松田 頼征 (構造力学基礎)
水上 哲也 (設計計画 II -1)
三家 大地 (設計計画 III -1)
元木 大輔 (造形総合・デザイン II)
山内 彩子 (環境計画 b)
山家 明 (設計計画 II -1)
山村 尚子 (設計計画 II -1)
山本 大介 (設計計画 II -1)

研究室スタッフ

助手　木村 幸伸
　　齊藤 啓輔
　　鮫島 慧
　　高森 理亜
　　棚橋 玄
　　三ツ井 岳

※教員紹介は、2021 年度の在職状況を記載しています。

安藤 雅敏
大林組設計本部
設計部長

武蔵野音楽大学江古田新キャンパス（2017 年）

―現在のお仕事について
あらゆる建築物を設計する大きな組織の中で、幼稚園から大学まで幅広く教育施設を設計するグループを率いています。
―ムサビで学んだこと
他分野との刺激的な交流を通じ、自然と幅広い視野で建築を考えるようになりました。

大堀 伸
ジェネラルデザイン
代表

「SPRING VALLEY BREWERY TOKYO /LOG ROAD DAIKANYAMA」(2015 年)

―現在のお仕事について
商業施設や個人住宅の建築設計から、ショップや飲食店のインテリアデザインなどをしています。
―ムサビで学んだこと
ものをつくる様々な分野の友人との対話、つながりの大切さ。

小塙 香
KOBFUJI Architects
共同主宰

「スマラガ郷土資料館」(2014 年)
撮影 =KOBFUJI Architects

―現在のお仕事について
スペインを拠点に建築やランドスケープを通して、百年以上前の建物や自然という圧倒的魅力を既に持つ対象を守り次へ繋げることを考えながら設計活動をしています。
―ムサビで学んだこと
分野を超えた授業内容により、音楽、デザイン、アート、美術史等、多方面から建築へアプローチすることの楽しさを学びました。

小松 宏誠
アーティスト

六本木ヒルズ　ウエストウォーク　クリスマスデコレーション
「Snowy Air Chandelier」(2014 年)
撮影 = YAMAGUCHI KENICHI（RRD）

―現在のお仕事について
「浮遊」「羽根」をテーマとした作品制作を続け、他チームとのコラボレーションで商業展開しています。
―ムサビで学んだこと
自分の興味とチャレンジを教えてもらえた事で、仕事もプライベートも人生がスタートした気がします。

小坂 竜
乃村工藝社
商環境 事業本部 A.N.D.
クリエイティブディレクター

「The Hotel Seiryu Kyoto Kiyomizu」京都（2020 年）

―現在のお仕事について
大きな会社に属しながら、青山にも事務所を構え、国内外の上質なホテル・レストラン・レジデンスなどのデザインをしています。
―ムサビで学んだこと
色んなジャンルのモノをつくる仲間がいるので、モノをつくる楽しさと厳しさを経験することができました。

大島 芳彦
株式会社ブルースタジオ
専務取締役
クリエイティブディレクター

「まちのこども園 代々木公園」
2018 年度グッドデザイン賞受賞

―現在のお仕事について
ブルースタジオは「まちの使いこなし方をデザインする会社」。建物のデザインにとどまらずマーケティング、事業企画、マネジメント、プロモーションに至るまで、社会環境を総合的にデザインしています。
―ムサビで学んだこと
人と同じことより違うことが価値とされる校風。多様な感性をもつ仲間との交流、対話が自らの感性を磨いてくれました。

横田 典雄
CASE DESIGN STUDIO
代表

「軽井沢矢ケ崎の家」(2016 年)
撮影＝新建築社

―現在のお仕事について
主に住宅や別荘などを設計。どのような用途になっても成立する空間性を獲得するように意識し、バランスがとれた建築を目指しています。
―ムサビで学んだこと
様々な分野の人々から、理屈ではない美しさや力強い自由など、自分に足りないものを感じることができました。

池川 健太
(株) 博報堂
クリエイター / プランナー

Google Chromebook プロモーション（2019 年～）

―現在のお仕事について
Google Chromebook、日本コカ・コーラ 綾鷹、メルカリ、Amazon など多くのグローバルブランドや先端 IoT 家電などの事業開発から広告設計まで担当。
―ムサビで学んだこと
建築的な思考は、建築だけではなくあらゆる領域に活かせる事が出来ます。制作だけに没頭できる環境があった事に今ではとても感謝しています。

主な就職先

■アトリエ系建築設計事務所
芦原太郎建築事務所、APOLLO Architects & Associates、アンドウ・アトリエ、伊坂デザイン工房、石上純也建築設計事務所、乾久美子建築設計事務所、畝森泰行建築設計事務所、O.F.D.A、小川晋一都市建築設計事務所、オンデザインパートナーズ、カスヤアーキテクツオフィス、城戸崎建築研究室、隈研吾建築都市設計事務所、コンテンポラリーズ、佐久間徹設計事務所、SALHAUS、SANAA、スキーマ建築計画、スタジオプラナ建築設計事務所、團紀彦建築設計事務所、手塚建築研究所、永山祐子建築設計、NAP 建築設計事務所、成瀬・猪熊建築設計事務所、能作淳平建築設計事務所、袴田喜夫建築設計室、彦根建築設計事務所、fuse-atelier、ブルースタジオ、細矢仁建築設計事務所、槇総合計画事務所、増田信吾 + 大坪克亘、光井純 & アソシエーツ建築設計事務所、ミリグラムスタジオ、矢萩喜従郎建築計画、山本理顕設計工場、横内敏人建築設計事務所、ヨコミゾマコト建築設計事務所、吉村靖孝建築設計事務所、ワークステーション、若松均建築設計事務所、403architecture[dajiba]

■組織設計事務所
あい設計、相和技術研究所、池下設計、伊藤喜三郎建築研究所、梅沢設計、日建設計、日本設計、日本建築構造センター、バックグランド、プランテック総合計画事務所、三輪設計事務所、UDS、類設計室

■建設会社
青木あすなろ建設、大林組、小川建設、鹿島建設、鴻池組、清水建設、大成建設、JR 東日本、JR 東日本都市開発、新三平建設、大同工業、大和小田急建設、高松建設、竹中工務店、戸田建設、フジタ、平成建設、森ビル、ヤマウラ

■住宅メーカー
アキュラホーム、飯田産業、エス・バイ・エル、オープンハウス・アーキテクト、スウェーデンハウス、住友林業、積水ハウス、大和ハウス工業、タマホーム、東急ホームズ、東京セキスイハイム、トヨタホーム東京、ニットー住宅、パナホーム、ポラスグループ、ミサワホーム、三井ホーム、ヤマネホールディングス、ユウキ建設

■不動産業
エスケーホーム、王子不動産、木下不動産、サジェスト、JR 東日本ビルディング、大東建託、東京建物、日神不動産、野村不動産パートナーズ、三井不動産リアルティ、三菱地所プロパティマネジメント

■ランドスケープデザイン
オンサイト計画設計事務所、スタジオテラ、ソラ・アソシエイツ、ランドスケープデザイン、ランドブレイン

■インテリア・ディスプレイ
イニシャルジャパン、イリア、インテンショナリーズ、ウエル・ユーカン、エイムクリエイツ、遠藤照明、岡村製作所、グリーンディスプレイ、小林工芸社、コクヨ、コトブキ、ジーク、GK デザイン、ジールアソシエイツ、昭栄美術、スペース、船場、ソーケン、髙島屋スペースクリエイツ、タカラスペースデザイン、竹内デザイン、丹青社、ツクルバ、デザインアートセンター、ドラフト、夏水組、日建スペースデザイン、乃村工藝社、博展、ハコリ、三越伊勢丹プロパティ・デザイン、ルーヴィス、ワンダーウォール

■ファッション
アズノゥアズ、イッセイミヤケ、エース、オンワード樫山、貴和製作所、ケイ・ウノ、コムデギャルソン、ベイクルーズ、丸高衣料、リデア

■舞台
劇団四季、シミズオクト、日本ステージ

■メディア
アサツーディ・ケイ、NHK、光文社、商店建築社、新建築社、新潮社、タツノコプロ、TCJ、TBS テックス、テレビ朝日、日本テレビアート、フォアキャスト・コミュニケーションズ、ホビージャパン、マルモ出版

■広告・グラフィックデザイン
アマナホールディングス、電通テック、凸版印刷、ナカサアンドパートナーズ、博報堂アイ・スタジオ

■官公庁
宮内庁、宮城県庁、昭島市役所、川崎市役所、神戸市役所、調布市役所

■その他
NTT データ・ファイナンシャルコア、クレスコ、湘南ゼミナール、TOTO エキスパート、日大グラビヤ、ニュウファニチャーワークス、日比谷花壇、福武財団、ベネッセスタイルケア、MAG BY LOUISE、丸井、ムーンスター、無印良品（上海）商業有限会社、UT コンストラクション・ネットワーク、ルピシア、レクシア

主な進学先・留学先

武蔵野美術大学大学院、東京大学大学院、東京藝術大学大学院、東京工業大学大学院、東京理科大学大学院、早稲田大学大学院、慶應義塾大学大学院、明治大学大学院、同志社大学大学院、東京都立大学、横浜国立大学大学院、筑波大学大学院、千葉大学大学院、東北大学大学院、大阪大学大学院、大阪市立大学大学院、京都芸術大学大学院
AA スクール、オスロ建築デザイン大学、カタルーニャ工科大学、グラスゴー美術学校、プラットインスティテュート、ミラノ工科大学、ロンドン芸術大学

在校生・卒業生の受賞

■ 2020 年
「第 20 回住宅課題賞 2020」優秀賞 1 等：ニ又 大瑚
「JIA 全国学生卒業設計コンクール 2020」銅賞：山田 寛太
「建築新人戦 2020」16 選：大月 菜子、古川 隼也
「仮囲いデザインコンテスト」優秀賞：岩穴口 颯音、一色 淳之介、税所 飛駆
「第 29 回 JIA 東京都卒業設計コンクール 2020」田根賞：山田 寛太
「2021 年日本建築学会文化賞」受賞：藤江 和子、真壁 智治
「大津京マンション設計コンペ」2 等賞：滝川 寛明
「第 62 回全国カタログ展 カタログ部門」経済産業大臣賞・金賞：根間 太作
「クリエイティブ・アド」グランプリ：高田 雄大朗
「六甲ミーツ・アート 芸術散歩 2020 公募大賞」グランプリ：上坂 直
「Young Lotus Workshop」日本代表：高田 雄大朗
「第 14 回キッズデザイン賞」受賞：鈴木 竜太、田中 匡美

■ 2019 年
「JIA 全国学生卒業設計コンクール 2019」金賞：吉田 葵
「第 28 回 JIA 東京都学生卒業設計コンクール 2019」銀賞：吉田 葵
「第 42 回学生設計優秀作品展（レモン画翠）」レモン賞：矢鋪 礼子
「第 19 回卒業設計コンクール（埼玉建築設計監理協会）」
特別審査員賞：野口 新、小泉 大季　日建学院賞：南雲 雄大
「日比谷ランドスケープデザイン展 2019」優秀賞：若杉 勇　村上賞：倉田 怜伽
「住宅設計コンペティション 鹿児島を楽しむ家」優秀賞：高谷 竜太
「サンゲツ壁紙デザインアワード 2019」奨励賞：河野 亮
「2019 年日本建築学会作品選集」新人賞：櫻井 建人
「ARCHITECTURE ASIA AWARDS FOR EMERGING ARCHITECTS」受賞：原田 将史
「SD レビュー 2019」入選：畠山 鉄生、吉野 太基
「JAAA 第 48 回懸賞論文」金賞：池川 健太
「JIA 神奈川デザインアワード 2019」優秀賞：星野 千絵
「日本空間デザイン賞 2019」金賞：佐々井 歩

■ 2018 年
「第 18 回住宅課題賞 2018」優秀賞 1 等：矢舗 礼子
「全国建設業協同組合連合会 仮囲いデザインアイデアコンテスト」
最優秀賞：近藤 直輝、二又 大瑚、一色 淳之介、長谷川 ゆい
「日比谷ランドスケープデザイン展 2018」河合賞：福田 早也花
「小田急電鉄 鶴川駅アイディアコンテスト」駅舎デザイン部門 優秀賞：山村 尚子
「第 32 回吉岡賞」増田 信吾
「The Best of the Best TMA Art Awards」グランプリ：石山 和広
「日本建築設計学会 Architects of the year 2018」入選：原田 将史
「第 8 回 公募 新鋭作家展」優秀者：上坂 直
「第 6 回 JIA 東海住宅建築賞」奨励賞：山村 尚子
「第 21 回文化庁メディア芸術祭」アート部門審査委員会推薦作品：井口 雄介
「第 10 回三井住空間デザインコンペ」三井住空間デザイン賞：川見 憲史

「日本空間デザイン賞 2019」ショップ空間 金賞「NSK MUSEUM」佐々井 歩
写真：ナカサ & パートナーズ　河野 政人

2022年度 建築学科 入学試験情報

一般選抜 募集62名

一般方式

募集35名
本学独自の国語・外国語・専門試験

国語・外国語科目

①国語　100点
②外国語　100点

共通テスト2教科＋専門試験方式

募集15名
大学入学共通テスト
＋
本学独自の専門試験

選択2科目

①国語 / 外国語 / 数学
のうち1科目選択100点
②選択科目100点

共通テスト3教科方式

募集12名
大学入学共通テストのみ

必須1+選択2科目

①外国語　100点
②国語 / 数学
のうち1科目選択100点
③選択科目100点

専門試験科目

③鉛筆デッサン / 数学
どちらか1科目選択　200点

総合型選抜(自己推薦)募集10名

■一般方式
(学校長推薦不要・評定平均値指定なし)
自己推薦調書による第一次選考と、表現力テスト＋グループ面接による第二次選考で、建築学科で学ぼうとする関心の高さを主眼として選抜します。
出願に先立って希望者には「事前面談」を実施します。

■出願可能年齢
2022年4月1日時点で満28歳以下の者

■出願期間
2021年9月17日(金)から
9月27日(月)まで
(web出願後郵送受付・消印有効)

大学院選抜 造形研究科修士課程 デザイン専攻建築コース

■選考方法
①即日設計 / 小論文(英語含む)
のうち1科目選択
②プレゼンテーションおよび面接

■提出作品
①近作1点
(プレゼンテーションで使用するデジタルメディアを提出)
②ポートフォリオ(近作3点以上)
または論文

入学試験に関する情報・お問い合わせ

※入学試験概要，募集要項，過去の入試問題など詳細は、本学ウェブサイト「入試情報」よりご確認ください。
武蔵野美術大学　www.musabi.ac.jp
入学センター　tel : 042-342-6995 (月 - 土 / 9:00 ～ 16:30)

学部卒業後に取得可能な資格

・一級建築士受験資格
・二級建築士受験資格
・木造建築士受験資格
・学芸員（別途、科目履修が必要となります）

※一級建築士の免許登録には2年以上の実務経験が必要となります。
※大学院は建築士試験の大学院における実務経験要件に対応しています。
大学院で開講している科目の単位取得数により、建築士試験の大学院における実務経験年数1年または2年が認定されます。
詳しくは研究室にお問い合わせください。
※本学科には教職課程は設置されていません。

武蔵野美術大学建築学科　学科紹介2022
2021年6月1日発行
発行：武蔵野美術大学建築学科研究室
〒187-8505 東京都小平市小川町1-736
tel : 042-342-6067　fax : 042-344-1599
mail : arc@musabi.ac.jp
website : www.arc.musabi.ac.jp
facebook : www.facebook.com/arc.musabi
企画編集：建築学科研究室（高森 理亜）
デザイン：入江 剛史
写真撮影：入江 剛史、大関 龍一、村松 聡、建築学科研究室
印刷：株式会社アトミ
表紙作品：大西 加那子「作られすぎた風景」
(2020年度卒業制作　金賞・優秀賞)

MAU Architecture